

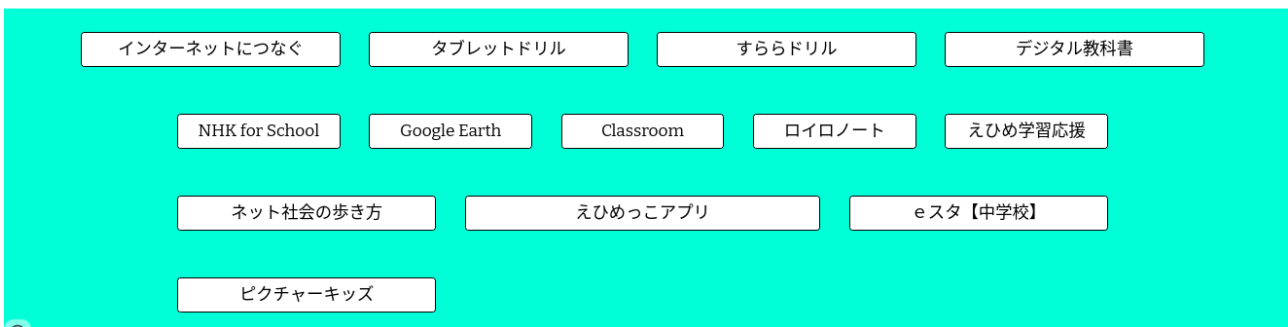
## 1 はじめに

本市では、本年度より「GIGAスクール構想」の実現に向けて、高速通信ネットワークの整備や児童生徒の1人1台端末を導入している。それと並行する形で、教育委員会が様々な「ICTを活用した指導法」の研修を推進しており、ICT活用の組織的実践の積み上げが行われている。特に、市全体でICTの組織的な活用を推進していくために、「GIGAスクール通信」を毎月発行し、数多くのコンテンツを学校間で情報共有している。ここでは、中学校の取組だけを紹介しているが、本市のホームページでは市内全ての小中学校の実践が掲載されているので、是非、ご覧ください。

また、情報端末を授業で活用することだけでなく、授業の予習や復習など家庭学習にも生かせるよう、家庭学習で利用できる学習コンテンツが多く搭載されており、自分の能力に合わせてながら学習を進めていくことができる。そのため、児童生徒が利用しやすいようにトップ画面に工夫がされている。

### 【児童生徒のトップ画面】

# 四国中央市 Chromebook



## 2 実践事例

### (1) 第3学年 社会科公民分野「つながる私たちと世界」

#### ① 内容

「Googleサイト」に提示した資料から情報を読み取り、班の話合い活動を通して、「Jamboard」にまとめる。

#### ② 使用アプリ

「Jamboard」

#### ③ 事例紹介

教師が用意した資料を基に、生徒が社会に見られる課題を把握し、議論したり、まとめたりする学習を行う。具体的な事例を資料として用意し、生徒に提示することで、主体的・対話的な学びを充実させる。

【Google サイトに授業課題に関する情報を提示】



☆Google サイトのメリット

教科書や資料集の資料と異なり、資料の解説がないため、話し合い活動を通して生徒の思考力を育てることができる。



スポーツ選手



日本で活躍する外国人



【班活動で「Jamboard」にまとめ】

あらかじめ班の番号を示した付箋を用意しておく、生徒はスムーズに意見を入力できる。  
代替案として、「Google スライド」にまとめる方が効果的な授業もある。

グローバル化のメリット、デメリットを考えよう

メリット (ピンク付箋)		デメリット (青付箋)	
1 人手不足解消・外国人との交流の機会が増える	日本と外国の関係がより良い方向に進む。	2 文化の違いや考え方で伝わらないからコミュニケーションが難しい	4. 考え方や言葉の違い 外国企業との競争
5 人手不足解消・他国の人と繋がれる、仲良くなれる・外国語の勉強になる	7 資源の少ない日本が海外に進出できる	・考え方の違いによるトラブル ・言葉の壁によってうまく伝わらない	外国人への指導が大変。⇒トラブルになることも・・・

④ 解説

「Google サイト」はホームページ作成アプリであるが、簡単に作成できる点から社会科の資料集の役割を果たすことができる。教科書に依らず、課題探究的な授業が作成しやすいため、課題を追究したり、解決したりする学習をより一層、充実させることができる。

(2) 第3学年理科「遺伝の規則性」

① 内容

「Google スプレッドシート」を共有して実験結果の正確さを高める。

② 使用アプリ

「Google スプレッドシート」

③ 事例紹介

遺伝の規則性を調べる実験で、データ数を増やすことと、よりデータを正確にすることを目的にして「Google スプレッドシート」を用いた。

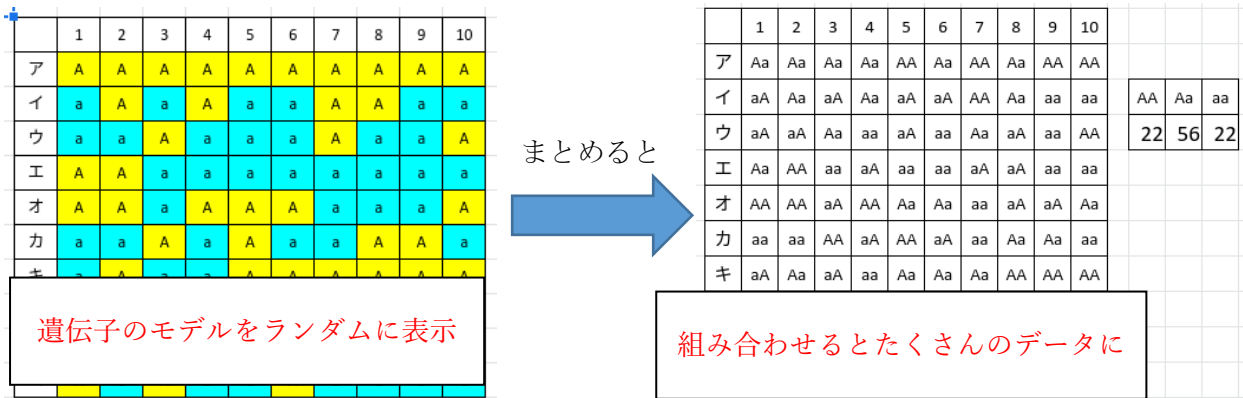
ア これまで

ペアでカードを出し合い、その組合せを遺伝子に見立てて考えていた。この場合、データに偏りが出ることで、データの数が少なくなることが欠点であった。



イ 今回

「Google スプレッドシート」の乱数関数を用いて、よりランダムな多くのデータを短時間で集めることができた。これにより、データがより正確なものになった。



④ 効果

どんな組み合わせにしても、データの数が多ければ多いほど、正確な実験結果が示されることで理解が深まる。



6	52	2	897	303	299:101	2.96
7	49	9	1048	352	131:44	2.98
8	48	8	1200	400	3:1	3.00
9	45	5	1355	445	271:89	3.04
10	43	8	1512	488	189:61	3.10
11	53	8	1659	541	1659:541	3.07
12	49	9	1810	590	181:59	3.07
13	62	9	1948	652	487:163	2.99
14	53	9	2095	705	419:141	2.97

(3) 第2学年数学

① 内容

授業での「ロイロノート」の活用

② 使用アプリ

「ロイロノート」

③ 事例紹介

ア ヒントカードの作成・配付

- ・授業内共有フォルダにヒントカードを複数作成した。
- ・生徒は自分の習熟度に応じたヒントカードを選択し、問題を解いた。

イ 小テストでの活用

- ・単元導入時に前年度の内容の小テストを行い、習熟度を把握した。

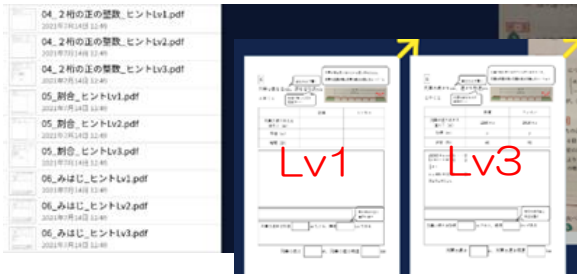
ウ 課題の提出

- ・教科書に書き込んだグラフを撮影し、課題として提出した。

エ Webカードの配付

- ・「GeoGebra」のWebカードを配布した。
- ・生徒は「GeoGebra」でグラフを作成し、自分が描いたグラフと比較した。

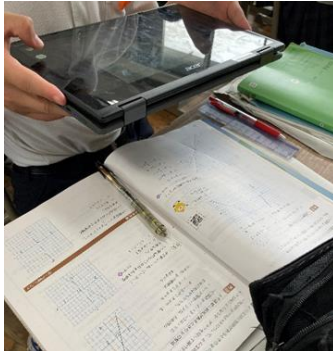
### 【ヒントカードの作成・配付】



### 【小テストでの活用】



### 【課題の提出】



### 【Webカードの配布】



#### ④ 解説

授業で「ロイロノート」を活用することで、生徒の興味・関心が高まり、意欲的に取り組む生徒が増えた。また、ヒントカードを複数作成することで、一斉授業の中で習熟度に応じた学習を行うことができた。今後も「ロイロノート」の活用方法を模索し、生徒の更なる学力向上を図りたい。

#### (4) 社会科

##### ① 内容

- ・「Google meet」でブラジル在住の人と話をする。
- ・ブラジルのことを質問する。

##### ② 使用アプリ

「Google meet」

##### ③ 事例紹介

社会科の地理分野「時差の計算」の単元において、日本と世界の時差を体感するため、ブラジルに住む日系2世の方にご協力いただき、「Google meet」でオンライン通信を行った。

##### ④ 解説

ブラジルの外の様子を映してもらうことで時差を体感することができた。また、世界の地域区分「南アフリカ大陸」の単元ではブラジルと日本のつながりも教科書に載っているため、ブラジルの食べ物や文化、なぜ日本語が話せるのかななどもお話しいただき、日本とのつながりも理解することができた。

会話は日本語です

